

大藤原京左京五条八坊の調査

橿原市教育委員会

【はじめに】

調査地は、橿原市の南東部、香具山の北東 1.1 km、戒外川左岸から御厨子観音までの東西に延びる「へ」字状に彎曲した「高まり」上に位置します。高まりの規模は、長さ約 220m・幅約 20～45m・南側の水田面からの高さ約 1.5～2.5mを測ります。当該地は、古代に「磐余」と呼ばれた地域に含まれ、高まりが南西から北東に延びる数条の谷筋を塞ぐ形状であることから「磐余池」の堤に推定されています。

今回の調査地より 100m南方の地点で行われた桜井市教育委員会の調査（平成 12 年度）では、粘土層・腐植土層が見つかり、それが池の堆積土である事が確認されました。堆積土から 6 世紀後半～7 世紀初頭の遺物が出土し、池の機能していた年代の一端が明らかとなりました。

【調査の概要】

今回の調査で見つかった主な遺構は、掘立柱建物 3 棟、掘立柱塀 2 条、竪穴建物 2 棟、大壁建物 1 棟、堤造成土等です。

掘立柱建物 1 南北 7 間以上 × 東西 2 間の南北建物。柱掘形は、一辺 0.6～1.0m の隅丸方形。時期は 6 世紀後半頃です。

掘立柱建物 2 南北 2 間 × 東西 1 間の南北建物。柱掘形は、一辺 0.4～0.6m の隅丸方形。竪穴建物 2 との重複状況から、6 世紀末以前の建物と考えられます。

掘立柱建物 3 東西 3 間 × 南北 3 間の建物。柱掘形は、一辺 0.5～0.9m の隅丸方形。竪穴建物 2 との重複状況から、6 世紀末以前の建物と考えられます。

掘立柱塀 1 3 間以上の東西塀。柱掘形は一辺 0.4～0.9m の隅丸方形。時期は 6 世紀後半頃です。

掘立柱塀 2 3 間以上の東西塀。柱掘形は一辺 0.5～0.7m の隅丸方形。時期は 6 世紀後半頃です。

大壁建物 「コ」字状に巡る溝（一辺 7.0m・幅 0.5～0.7m・深さ 0.4～0.8m）で、断面形は逆台形を呈する溝です。溝の外側の肩部には 6 基の柱穴が等間隔に並びます。掘立柱塀 2 との重複状況から、6 世紀後半以前の建物と考えられます。

竪穴建物 1 平面形は方形を呈します。その規模は一辺 3～3.4m・深さ 0.25～0.4m を測ります。時期は 7 世紀前半頃です。

竪穴建物 2 西半部が調査区外の為、平面形は不明です。その規模は東辺 3.8m・深さ 0.2m を測ります。時期は 6 世紀末頃です。

堤造成土 1 調査区北端部の丘陵の北斜面に砂質土や粘土（厚さ 1.4m 以上）を積み重ねたものです。時期は 6 世紀後半以前です。

堤造成土 2 調査区南半部で、砂質土や粘土をほぼ水平方向に厚さ 0.1～0.3m の単位で、深さ 3.2m 以上にわたり積み重ねたものです。時期は 7 世紀末頃です。

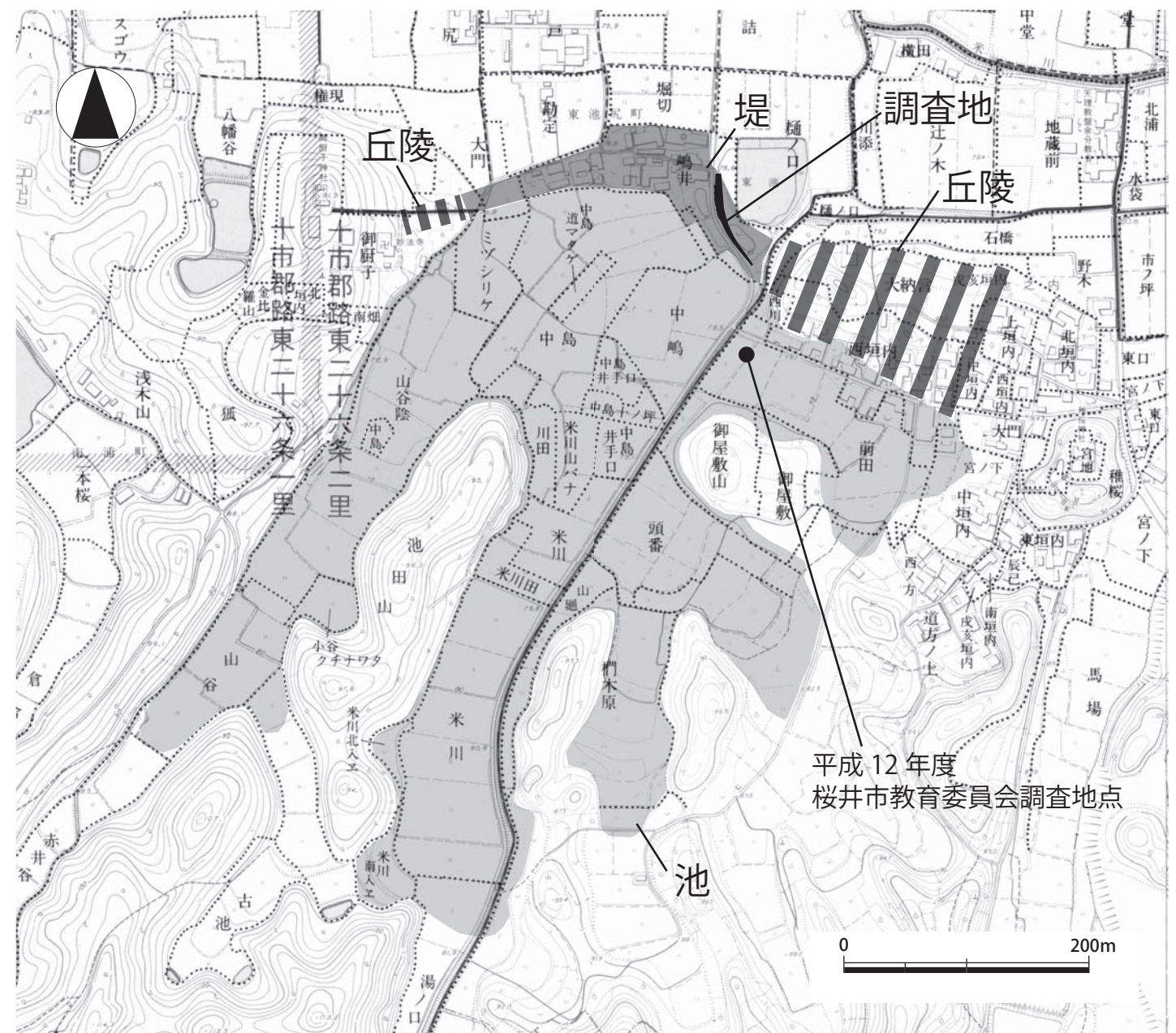
【まとめ】

①高まりが推定の通り人工的に築かれた堤である事を確認しました。人工的に築かれた堤は、丘陵の尾根を削って北斜面を埋めて築かれた所（堤造成土 1）と、7 世紀末頃に再構築または改修された所（堤造成土 2）の 2 箇所を確認されました。

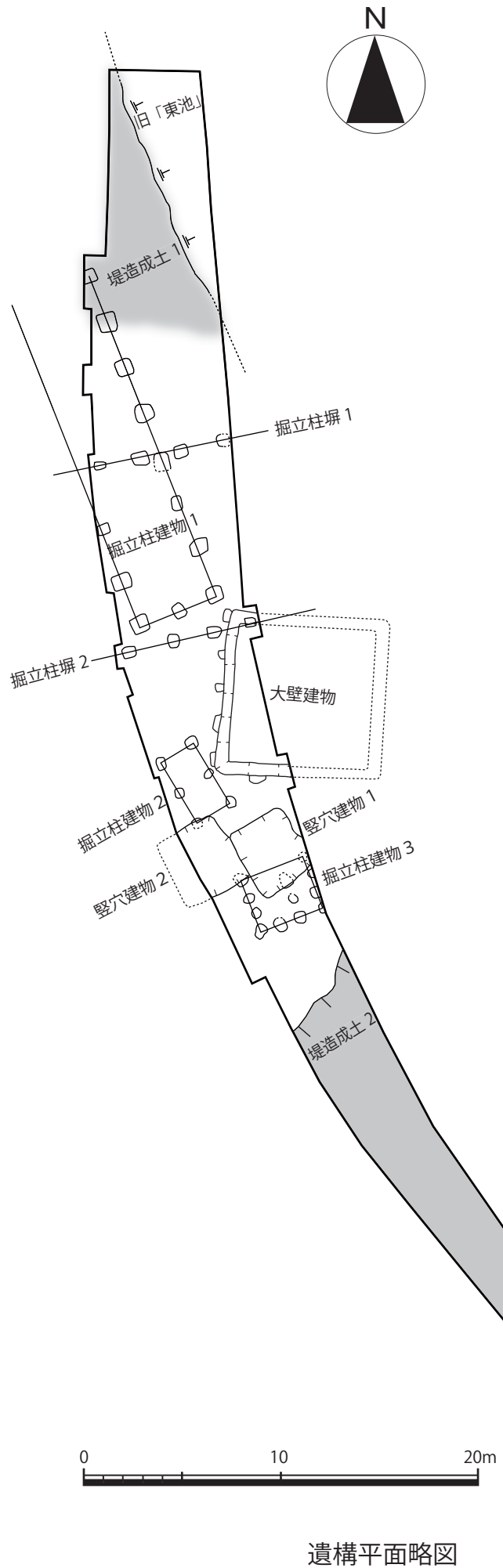
②3 種類の異なる構造の建物が見つかりましたが、その中で、最も古いのが大壁建物です。大壁建物は、池と共に渡来人との関わりが指摘されている遺構です。今回、大壁建物が堤の上で見つかった事は、池の築造と渡来系集団との関連を示すものとして注目されます。

③堤の上で見つかった 6 世紀後半～7 世紀前半の建物は、これまでの調査により池と同時期に存在していた事が明らかとなりました。建物は堤の上に位置するため、池に関連する施設であった可能性が考えられます。

④堤の上から見る池は景観的にも優れており、鑑賞や遊宴用としての役割があった事が推測されます。また、池は奈良盆地東南部の中でも水を供給し易い高所に立地しており、灌漑用の池として理にかなった所に築かれていると言えます。



池・堤復元図 (S=1/5, 000)



遺構平面略図



調査区北半部建物群 (北から)



発掘調査地位置図 (S = 1/25,000)



掘立柱建物 1 (南東から)



大壁建物 (西から)



竪穴建物 1 (北西から)



竪穴建物 2 (東北東から)